

デートDVの研修のために

デートDVについて若い人たちと一緒に考えてみようと思われる方へ

- 1 デートDVってどういうこと？
- 2 暴力の種類
- 3 どうして起こるのか
- 4 デートDVの実態
- 5 高校生の声
- 6 ソーレ図書・情報資料室で貸出できる参考資料
- 7 相談窓口
- 8 ロールプレイの活用

こうち男女共同参画センター「ソーレ」

1 デートDVってどういうこと？

夫婦や恋人など親密な間柄で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）といい、交際相手からの暴力を、特にデートDVといいます。

次のようにも言われています。

- ・「DVとは英語の **Domestic Violence** を略したもので、一般的には「配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振られる暴力」の意味です。恋人間に起こる暴力、DVのことを、特に、デートDVと呼びます。」（北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”作成『デートDVについて知ろう！』）
- ・「DVというのは親密な関係にあるパートナーに対してふるわれる、からだや心への暴力のことです。これは決して大人だけの問題ではありません。若者の間でも起きています。セックスをするまでは起きない暴力が、親密な関係になった途端、身体的・精神的・性的などさまざまな形で起きることがあります。そのような暴力を「デートDV」と呼びます。DVもデートDVも、人権侵害にあたる行為であり犯罪です。」（山口のり子著『愛する、愛される』）
- ・「デートDVとは、恋愛関係において「いろいろな力」を使って、強い側が弱い側を支配すること、自分の思い通りにすることで、具体的には弱い側の安全とか自信、自由、自己決定、成長などが奪われる状況です。」（伊田広行著『ストップ！デートDV 防止のための恋愛基礎レッスン』）

平成13年に「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律」が施行され、それまでは夫婦げんかとして処罰の対象にならなかった暴力が、たとえ夫婦の間でも、配偶者からの暴力（ドメスティック・バイオレンス **Domestic Violence / DV**）は犯罪だと認識されるようになりました。

法律施行後は「DV」という言葉の拡がりとともに、相談件数も増加する傾向がみられました。その件数の中には、DVを知って「今まで受けていたことは暴力なんだ」と気づく、再発するというケースも含まれていました。

DVの理解が進んでいく中で、これは決して大人だけの問題ではなく、交際中からすでにDVが始まっているケースが多くあることがわかってきました。

中学・高校・大学等に通う年代は、恋愛や性に対する興味・関心が高い年頃であり、メディア等に影響され、間違ったイメージや知識にとらわれやすい時期でもあります。

DV加害者（男性）から「もっと若いうちにDVについて知っておきたかった」という声などもあり、大人になってDVの被害者・加害者にならないために、若いうちに「デートDV」に対する予防啓発を実施する必要があるということが指摘され、またその重要性が認識されるようになりました。

2 暴力の種類

- 身体的暴力 相手に向かって物を投げる
顔などをたたいてあざがでたりする
蹴ったり髪を引っ張ったりする
首を絞めたり凶器で脅したりする
熱いものでやけどをさせる
部屋や家に閉じ込めたり入れなかつたりする 等

- 精神的暴力 相手を繰り返し批判したり否定的なことを言ったりする
頻繁に電話やメールをする・させる
相手の携帯のメールを勝手にチェックしたりアドレスを消したりする
無視する
理由もなく不機嫌になる
自分の暴力や態度・行動を相手のせいにする
何でも一人で勝手に決める、
わざと他の人とつき合って嫉妬させる
ストーカー行為をする
「お前なんか役に立たない」と友だちの前で侮辱したり、無力感を持たせる 等

- 経済的暴力 お金を払わせる、借りたお金を返さない 等

- 性的暴力 嫌がっているのに性的なことを強要する、
「大丈夫」といって避妊に協力しない、
相手が不機嫌になるのが恐くて断れない 等

DV、デートDVは、一つ一つの暴力が切り離されて起こるわけではなく、現実にはいくつもの暴力が組み合わされて起こっています。暴力を受けていると、いつも神経を張りつめて暮らすことになり、相手を怒らせないように他の人との約束をキャンセルしたり、自分が希望していることをあきらめたりすることが起こります。

身体的暴力だけではなく、暴力にはさまざまな形があることを理解すると、暴力が身近なところで起こっていることに気づき、また暴力に気づいていない自分を振り返るきっかけになります。

3 どうして起こるのか

デートDVが起こる要因として次のようなことが考えられます。

■力と支配

DVをする人は、相手を支配したい、自分の思い通りに相手を動かしたいために、効果的で手っ取り早い手段として暴力を選ぶのです。DVを受けた人は意識的に繰り返される暴力行為によって、自分の行動や人生について決める権利も力も相手が奪ってしまいます。

■ジェンダーの縛りや偏見

社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」(ジェンダー)といいます。ジェンダーは、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではありませんが、差別につながるものも含まれ、例えば「強い」「主体的」「決断力」などは、間違えて自分中心に捉えようと、相手に対する「力と支配」を支える要因になります。

■暴力容認

メディアの暴力シーンの中には「暴力で解決しても構わない」など誤ったメッセージが含まれていたり、また「言ってもわからないときは…」などと条件を付けて暴力を認めてしまうなど、暴力を容認する風潮が社会の中に溢れています。

私たちは生まれた時から、ジェンダーで作られた男性像女性像に囚われたり、力で支配したり、暴力が容認されてしまった社会の仕組みの中で暮らし、多かれ少なかれこのような価値観を身に付けています。まずこのことに気づき、身に付けてしまっている間違った思い込みや考えはやめて、一人ひとりが自分らしさを大切に、また相手を尊重することが、デートDVをしない、されないために大切なことです。

4 デートDVの実態

いくつかの調査結果から数字をあげてみると、次のような実態があります。

- 交際相手からの被害経験をみると、約10人に1人は被害を受けたことがあり、男女別で見ると女性は約7人に1人、男性は17人に1人に被害経験があった。また、交際相手からの被害により命の危険を感じたことがある人は、女性は約30人に1人で、これは男性の約4倍にあたる。

(平成24年：「男女間における暴力に関する調査」内閣府男女共同参画局実施)

- 高知県内の高校8校でデートDVの出前授業を行った際のアンケートでは、高校生の約5人に1人が被害、加害または両方を経験している。

(平成22年：高知法務局・こうち男女共同参画センター「ソーレ」実施)

- 大学生、専門学校生等の約3人に1人が加害または被害を経験している。「自分の予定を優先させないと、無視したり不機嫌になる」「携帯電話の着信記録やメールをチェックする」の項目では、男女とも3割前後の人に被害経験があり、2割前後の人が加害を経験している。

(平成22年：「若い世代対象：男女共同参画とデートDVに関する意識調査」
こうち男女共同参画センター「ソーレ」実施)

5 高校生の声

高校生を対象に、こうち男女共同参画センター「ソーレ」が行った研修後の感想には、「暴力はいけないものだと言った」等暴力を否定するものが多数ありました。以下は、感想の一部です。

- ・やっぱり傷つけるのも傷つけられるのもいやだから、素直に言い合える関係が一番いいなと思った。
- ・今日聞いたことは普通のことだと思っていたが、DVだったのでビックリした。聞けて良かったです。
- ・怖いと思ったし、自分という存在がなくなるのは嫌だと思いました。
- ・デートDVは男性がうけることもあるんだなあとと思った。
- ・なぐったりするのがDVだと思っていたけれど、言葉とかもDVになるということを知りました。
- ・暴力は愛情表現ではない。
- ・DVは聞いたことがあったけれど、デートDVがあるとは知りませんでした。
- ・今は別れているのでいいですが、もっとはやく知りたかったです。
- ・かつてDVを止めようとして結局失敗してしまったことがあったので、今日のお話はとても勉強になりました。
- ・自分がされても嫌だった。もし友だちがそんなことをされていたら、絶対に助けたい。早く気づいたら良かったという自分の経験があるから、友達には気づいてほしいし、また体験してほしい。
- ・自分はやきもちを焼いてしまう方なので、(今回の授業で)対策などわかってよかった。DVは自分たちに全然関係ないと思っていたが、意外に身近なところにあるものだと言った。

6 ソーレの図書・情報資料室で貸出できる参考資料

■書籍

- 『なぜ男は暴力を選ぶのか〜ドメスティック・バイオレンス理解の初歩』沼崎一郎著 かもがわ出版
『デートDV防止プログラム実施者向けワークブック 相手を尊重する関係を作るために』
山口のり子著 梨の木舎
『愛する、愛される デートDVをなくす・若者のためのレッスン7』山口のり子著 梨の木舎
『デートDV 愛か暴力か、見抜く力があなたを救う』遠藤智子著 ベストセラーズ
『デートDVってなに？ 理解・支援・解決のために』日本DV防止・情報センター編著 解放出版社
『DV／虐待加害者の実態を知る あなた自身の人生を取り戻すためのガイド』
ランディ・バンクロフト著 明石書店
『ドメスティック・バイオレンス 愛が暴力に変わるとき』森田ゆり著 小学館
『デートDVと学校ー“あした”がある』高橋裕子著 エイデル研究所
『デートDVと恋愛』伊田広行著 大月書店
『傷ついたあなたへーわたしがわたしを大切にすること』レジリエンス著 梨の木舎
『よくわかるDV被害者への理解と支援』石井朝子編著 明石書店
『大人になる前のジェンダー論』浅野富美枝・池谷壽夫・細谷実・八幡悦子著 はるか書房
『人と人とのよりよい関係をつくるために』内閣府男女共同参画局

■DVD

- 『デートDV』アウェア
『人と人とのよりよい関係をつくるために』内閣府男女共同参画局

7 相談窓口（電話番号）

こうち男女共同参画センター「ソーレ」	088-873-9100
高知県女性相談支援センター	088-833-0783
高知県思春期相談センター「PRINK」	088-873-0022
高知県警察本部	088-823-9110 / #9110
レディスダイヤル110番	088-873-0110
女性の人権ホットライン（高知法務局）	0570-070-810 / 088-822-6526

8 ロールプレイの活用

デートDVを理解するために研修で用いられるロールプレイは、参加者（生徒等）同士が情報を共有し、また話し合いをすることもできる有効な手法の一つです。デートDVの対象となる年代では相談相手が友人の場合が多く、本人と友人の両方の気持ちをロールプレイで演じることで、相談者と聴き手という双方の立場に立って互いの状況に気づき合うことができます。

身近な会話でのロールプレイをすることによって、生活の中で暴力的な要素（意識）や、恋愛によくある感情や行動、例えば嫉妬や束縛がDVの要素を持っているということに気づくことにつながり、ここにDVの加害、被害を防止するという効果が期待できます。

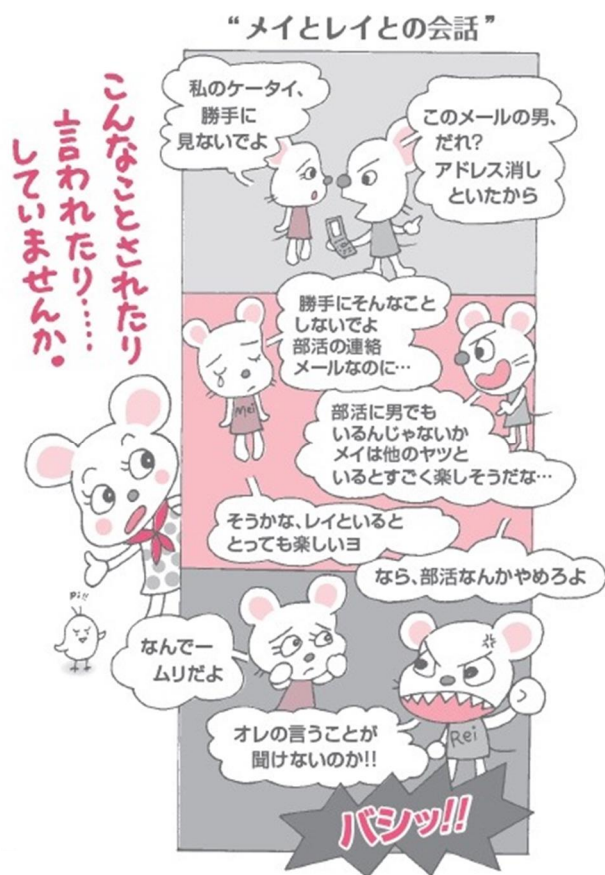
また、自分の気持ちを対等に相手に伝えるように言い換える表現を考えることで、暴力以外の方法で自分の気持ちを伝える方法を経験する機会となります。

なお、デートDVの研修でロールプレイを使って研修を行う場合、暴力的な会話を対等な関係の会話に修正するだけでなく、目的は会話の中の「力と支配」や「尊重のない関係」に気づくという点に配慮することが大切です。

以下は、ロールプレイの例です。

それぞれの場面で、暴力に結びつく要素を考えながら、ふたりのその時の気持ちを考えてみます。気持ちに焦点をあてることで、態度や伝え方が変わってきます。

1 アドレスを消す 〈1〉



1
ことばで相手を支配しようとする会話の例です。

携帯を勝手に見る、アドレスを消す、大きな声を出すなどの暴力的な行為で相手を支配しようとしています。

交際相手が部活に熱中していることに嫉妬のような気持ちを持っているところに焦点をあてて、部活を応援する気持ちや一緒にいたい等ということを伝えるような、尊重し合える会話を考えます。

2 今日の服

□レイ：今日の服、ハデやないかや。スカートも短い。

◆メイ：そう？ 私 この服 今一番お気に入り。
それにこれ、C子もすごくいいって言うてくれた。

□レイ：どう考えてもおかしいろ！誰っっちゃあそんな
ミニらあ、はいてないし。

◆メイ：そうかな・・・

□レイ：子どもじゃないがやき、そんな格好せんろう。
フツー。

◆メイ：じゃあ次からやめるわ。

2

相手を尊重していない会話の例です。「誰も～していない」「ふつうはそんなことはしない」ということばは、相手に「自分が間違っている」「自分だけが（みんなと）違う」という孤立感を与え、自己尊重の気持ちを奪うことになります。

3 優先順位

▲友人：メイちゃん、こんどの日曜日、どうするが？

◆メイ：〇〇〇に行こうかなーと思ひゆう。バック、買いたいき。
ちょっと大人っぽい感じの。

▲友人：私もね、Gパン、ほしいなあ。

◆メイ：じゃあ、一緒に行く？
11時、東の入り口のところで待ち合わせしよう♪
～～～

□レイ：こんどの休み、走りに行こうか。

◆メイ：私、友だち(□ちゃん)とショッピングに行くが。
約束したし。

□レイ：約束した？！なんで勝手に決めるが？
なんでオレに先に言わんがなや！
友だち(□ちゃん)に今すぐ断りや！

◆メイ：えーなんで・・・私が誘ったがやに・・・

□レイ：・・・(無視)

3

行動を束縛する会話の例です。他の友だちとの約束を断って二人だけの世界を作ってしまうと、入ってくる情報は交際相手からのみになる可能性があります。

そのような閉鎖的な関係では、力と支配が起こりやすくなるため、「友だちも大切に思っている」ということを相手に伝えていく必要があります。

4 今度、払うき

□レイ：腹減った。あそこの店に入る。
～～～

□レイ：〇〇2個と□□シェイク。

◆メイ：私、〇〇バーガーと△△シェイクで。

□レイ：あ、財布忘れた・・・出しちよってや、今度払うき。

◆メイ：・・・(またあ・・・？お金払うときはいつもこれ。
返してくれたこと、ないに。)

4

お金を払う場面での会話です。
返すことが前提なら一度や二度はありがちなことですが、常に一方がお金を払わされるのは経済的な暴力です。

5 愛されちゃう？

- ◆メイ：今日ね、レイが私のケータイとって、部活のA先輩とか男の人のメルアドを全部消してしもうたが。
- ▲友人：えー、なんでいきなり？
- ◆メイ：お昼休みにこの前の定演のことをみんなで話しよったら、レイが近くを通過して。声を掛けろうとしたけど、すぐおらんなって・・・と思ひよったら、帰りにいきなり「他の男と話らあするな！！」って。
- ▲友人：で、男の人のメルアドを消したってわけか。
- ◆メイ：部活の連絡網もあるに。
- ▲友人：そうか・・・困ったね。でも「君は僕だけを見て」ということよね。ヒューヒュー強引やけど、愛されちゃうということが、伝わってくる感じやね。ちょっと羨ましいかも。
- ◆メイ：そうかな・・・このきゅうくつ感も愛されてるってこと・・・？



6 アドレス消す〈2〉

- ◆カナ：タク、おまたせ。
- タク：(おしゃべり中)
～～～
- ◆カナ：かなり楽しそうに喋りよったね。
私とおる時よりすごくにこにこしちゃったで。
- タク：B子は同じ部活やきこの前の練習試合の話しよったがで。
- ◆カナ：それはよかったね。ほんなら私は帰るでー
- タク：これから図書館に行くがやなかったが？
- ◆カナ：・・・(無視)
- タク：カナ、行くで。
- ◆カナ：・・・(無視) 私以外の女子と話しせんかったら、行ってもえいで。
ほんで、ケータイのアドレスも女子は消すき！（ケータイ取り上げる）
- タク：ちょっと、ちょっと。

5

付き合いを束縛されたり、携帯電話からアドレスを勝手に消すなどの暴力的な行為をされたりしたことを友人に相談しています。

これらは暴力的な行為ですし、束縛を愛情表現だと誤解し、「羨ましい」と言うことは相談者の気持ちを理解していると言えないし、続いて話を聴いてほしいとは思わないでしょう。



6

相手を支配しようとする会話の例です。

無視することは精神的な暴力のひとつです。相手を不安な気持ちにさせることにより、相手の行動を支配します。

携帯電話のアドレスを消すことも暴力的な行為です。

参考資料

『デートDVについて知ろう！』北九州市立男女共同参画センター“ムーブ”作成

『愛する、愛される』山口のり子著（梨の木舎）

『ストップ！デートDV 防止のための恋愛基礎レッスン』伊田広行著（解放出版社）

『人と人とのよりよい関係をつくるために交際相手とのすてきな関係をつくっていくには/指導者用手引』内閣府男女共同参画局

『大人になる前のジェンダー論』浅野富美枝・池谷壽夫・細谷実・八幡悦子（はるか書房）